

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	環境建築設計法小委員会		主 査 名：永田 明寛 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：近本 智行
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地球環境・都市環境・人との調和を目指す「環境建築」実現のための技術は、進化を続けている。建築・設備を一体的に機能させる技術、ZEB 達成のための技術、活力を生み出す室内環境の創造技術、災害に対する強さを備える技術へと広がり、環境建築の設計は高度化している。本小委員会では、</p> <p>(1)環境建築の設計技術や性能予測・評価技術を収集・整理する。 (2)収集・整理した技術を、設計あるいは更なる技術の発展、技術者教育に利用できるように、出版物等の形にして公開する。初年度～3 年度： 初年度：①委員会活動の具体的な方針策定、②環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、③設計事例の現地調査と分析 2 年度：①環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、②設計事例の現地調査と分析 3 年度：①環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、②設計事例の現地調査と分析、 ③環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理、④成果の公開形式・内容構成の検討、シンポジウムの開催 4 年度：①環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理、②公開する成果の具体的な内容構成の検討</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：永田明寛 (東京都立大)、幹事：中山哲士 (岡山理科大)、委員：赤司泰義 (東京大)、石野久彌 (東京都立大)、宇田川光弘 (工学院大)、大木泰祐 (大成建設)、菊田弘輝 (北海道大)、小池正浩 (竹中工務店)、郡公子 (宇都宮大)、木幡悠士 (NTT ファシリテーターズ)、長井達夫 (東京理科大)、羽山広文 (北海道大)、丸山純 (松田平田設計)、村松 宏 (日建設計)、木下雅広 (日本設計)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2022 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 <small>(シンポジウム資料等は除く)</small>	
講習会	
催し物 <small>(シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画</small>	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 <small>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</small>	
委員会活動の問題点 ・課題	

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2022 年度は全 6 回の委員会、および、3 回の見学会を実施した。見学会は新型コロナウイルス感染拡大以来、久しぶりの実施となる。委員会では以下の項目を中心に話題提供があり、それに関する意見交換を行った。また、成果公表のための書籍出版「(仮)見る・使う・学ぶ 環境建築シリーズ第 4 弾」についての議論に時間を大きく割いており、具体的な内容が詰まりつつある。</p> <p>また、AIJ 大会では OS を企画し活発な議論が行われた。</p> <p>【主な話題提供】</p> <p>① 環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理 開成町役場の ZEB 実現の計画と運用実績 ZOZO 新社屋の環境配慮技術と設計事例の紹介 品川開発プロジェクト第 1 期(高輪ゲートウェイ～品川駅北エリア)計画の紹介。エネルギー供給計画や太陽熱カスケード利用の計画、他。 積雪寒冷地における無暖房化を目指した超高性能パッシブ換気住宅の実態調査</p> <p>② 公開する成果の具体的な内容構成の検討 出版企画として「見る・使う・学ぶ 環境建築シリーズ」の第 4 弾出版に向けて具体的な議論、各章の編集分担や中身の検討を行った。</p> <p>【見学会を実施した環境建築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開成町役場(神奈川県開成町, 4/25) ・ドルトン学園東京(東京都調布市, 10/27) ・ダイダン北海道支店ビル(北海道札幌市, 12/9) ・古平町役場複合施設かなえーる(北海道古平町, 12/12) <p>以上から、当初の計画を十分に達成しているものと判断した。</p> <p>③ の出版に関しては次年度以降も新規小委員会で継続審議を行う。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。